

中齋塾 東京フォーラム 第1回講話

令和8年1月10日(土)

明けましておめでとう御座居ます。本年もどうぞ宜敷御願ひ致します。

今日初めて来られた方もいらっしゃいますので、少しお話します。『陽明学のすすめ VIII』に出てくる中江藤樹についてです。中江藤樹は孝行者として知られ、若い頃に聖人を志し、生涯を通してその志を貫き、晩年には「近江聖人」と呼ばれるようになった人物です。この人は「孝」を大切にされた人物です。

昨日お会いした方から「明けましておめでとう御座居ます。今年の三が日はゆっくり出来ましたか」と聞かれましたので、「いえ、元旦から駆け回っていました」とお答えしました。

私は毎年、元旦から三日間は朝早く現場を回ると決めています。今年も元旦は群馬の数か所、2日は朝6時15分に御殿場の現場へ行きました。

御殿場アウトレットモールは三井系・三菱系が全国にあります。私が行った御殿場アウトレットモールは、三菱系の中でも図抜けた売り上げです。正月三日だけで他のアウトレットモールの一年分に近い売り上げになる程です。それだけに、現場は非常に忙しく、皆さん本当に良く働いておられます。

その朝、その支配人さんと少し話をしましたが、とにかく寒い。私が「朝早くからご苦労様です」と言うと、「警備員さんは5時過ぎには持ち場に就いていますので、大変感謝しています」と言われ、朝寒くて大変だと思いました。

現場の方々は寒さ対策をしていますが、それでも大変だと思います。私は手袋もマフラーもなく、防寒具無しでしたが、呼吸法を実践していましたので、そこまで寒くありませんでした。若い頃は呼吸法を2時間やっていると体から湯気が出てきた事を覚えています。今ではそうはいきませんが、それでも多少寒さに対抗できたかと思えます。

ただ、担当の役員さんはかなり寒そうでした。コートを着てもいいのにと思いましたが、会長の私が着ていないので、着られなかったのでしょう。そんな様子

を見ながら、皆で寒さに震えつつ現場に立っておりました。その日のアウトレットモールには118名が出勤していました。

元旦から三日まで各地を回り、その後は沼津や或る会社の富士裾野工場にも行き、こちらへ戻ってきました。その後、私の師匠である木内信胤先生が新婚時代に居候した建物と巡り合うことができました。場所はディズニーランドに近い潮見駅のそばで、潮見プリンスホテルの近くです。

私は潮見プリンスホテルの警備員さんと話をした際、渋澤栄一の建物が近くにあると聞きました。ぜひ見たいと思い行ってみると、青森にあった渋澤栄一の邸宅を清水建設が解体・移築したものでした。その建物は、私のお師匠が新婚時代に住んでいた家でした。

この邸宅は、渋澤栄一の孫で大蔵大臣を務めた渋澤敬三が、税金を現物納付した事をきっかけに残ったものだと言われています。説明書きにはありませんでしたが、そんな話をしながら、今では観光資源となった建物を懐かしく眺めてきました。

その後、印象に残った出来事があります。ガードマンの方に「ご苦労様です」と声をかけました。建物の至る所にその会社の経営理念が掲示されていたので、「こうして経営哲学を掲示しているのは、いい会社ですね」と話したところ、その警備員さんはとても愛社精神が強く、フジクラという会社の経営哲学について、一所懸命説明してくれました。

その翌日だったと思いますが、朝テレビで、経済団体の新年挨拶が早朝に放送されていました。経済団体ということで、様々な人にインタビューをしており、その中でフジクラの社長にも話を聞いていました。社長の岡田直樹さんが「私も光ケーブルを手がけております。私どもの技術は世界でただ一つ、業界でもオンリーワン、世界でもオンリーワンです」と胸を張って話されていたのが印象に残りました。

私は毎年、元旦、2日、3日と出かけています。昨日も年始の挨拶は大変だったでしょうと言われましたが、こちらから年始でお客様の所へ伺った事は一度もありません。

今日で年初めの仕事は一区切りとなりますので、少しは休めるかなと思っております。雑談は以上に致します。

では、素読の説明に参ります。

①学而第一【8】

子曰く、君子重おもからざれば則ち威すなわあらず。学まなべば則ち固こならず。忠信ちゆうしんを主しゆとし、己おのれに如しかざる者ものを友ともとすること無なかれ。過あやまちては則ち改すなわむるに憚あること勿なかれ。

初めての人がおられるので、少し丁寧に説明致します。

「子曰く、」

子は先生という意味です。孔子は、孔先生という意味で、昔は子の賜たまわく、または、子曰のたまわくと言っていました。今では子曰くいわが当たり前になっています。

「君子重からざれば則ち威あらず。」

木鶏（もっけい）という話を聞いた事がある方、何人かおられますね。安岡正篤先生の有名な話です。相撲取りの双葉山が69連勝を続けていた時の事ですが、ついに負けてしまいました。その事を安岡先生に伝える際、安岡先生は船の上におられた為、電報を打ちました。そこには「我、未だ木鶏足りえず 双葉」と書かれていました。

電報を受け取ったボーイさんは、意味が分からず、間違い電報ではないかと思いつつも、安岡先生宛てとして届けました。これが「木鶏」の話です。

少し言い方を変えると、中村天風先生のような存在を思い浮かべて下さい。ただその前に立っているだけで、自然と威圧感を覚えてしまう。オーラのある人の前では、無意識のうちに一步下がってしまうような感覚がありますが、そんな感じで捉えて戴ければ良いと思います。

人と向かい合って話を始める時、その人が胸を張り、堂々とした姿勢で、重みのある言葉を発すると、こちらも自然と背筋が伸びてきます。

つまり、知らず知らずのうちに背筋がピンと伸びてしまうような人。もしそこでオーラを感じたのであれば、なおさら良いです。そういう人と相對する、という事だと思います。

これを普通に説明すると、君子とは大まかに言えば、人の上に立つ方の事です。そういう人と向き合うと、自然と威圧感や威厳を感じます。重からざればとは、重々しさがなければ威厳は生まれえない、という意味だと捉えて良いでしょう。

周りを見渡してみてください。あの人に会うときはネクタイをきちんと締めよう、髪の毛も整えよう、だらしない格好ではお会いする訳にはいかない。そう思わせてくれる人がいますか。そうした気持ちに自然とさせてくれる人が「威」を備えた人なのだと考えれば良いでしょう。

「学べば則ち固ならず。」

これは学則不固の四字熟語としても知られています。学則不固について一番分かりやすい捉え方は、自分は頑固者だと周りから言われていると感じた時こそ、学べば良い、学ぶ事で頑固にならないで済む、頭がカチカチに固まっている状態でも、学ぶ事によって頭の中が柔らかくなっていく、と考えていただければよろしいでしょう。

もう少し違った見方をしますと、最初は学べば頑固にならないという理解で良いですが、学びが深まっていくと、また別の意味が見えてきます。

例えば、酒井さんは様々な事を学んでおられますが、学べば学ぶ程、心の中に真珠のようなものが出来てくるのではないかと思うのです。真珠というのは、中心に核があり、その周りを少しずつ包み込むように層が重なります。学ぶという行為も、それと同じです。学んでいるうちに、自分の中に芯となるものが生まれ、さらに学びによって包まれていく。そうしていくうち、学ぶ事により自分自身のレベルが上がっていきます。

学んだからといって、すぐに全てが身に付く訳ではありません。「今日は素読も順調にできたし、良い話も聞けて良かった」と思っても、翌日には全部忘れてしまう事はごく普通ですが、その中でこれは大事だと思えるものが一つでも心の中に残り、良い真珠の核になれば良いのです。

「忠信を主とし、」

親しい友人や知人等、真心を持って付き合い、信頼出来る人が増えていく事は、とても良いことです。そうしたお互いに信頼し合える人を大切にして付き合いなさい、ということが書かれています。

「己に如かざる者を友とすること無かれ。」

この言葉については、世の中で少し思わしくない説明が広まっているように思います。自分より実力が下の人や、レベルが低いと思う人とは付き合いはいけないという意味だと受け取られることがあります。それは違います。

自分より実力が下だと思える人に対しては、つい偉そうな言い方になってしまいがちです。そんなことも知らないなら教えてあげよう。というように、上から目線で接してしまうと、相手は離れていってしまいます。ですから、「自分より実力が足りない人を友人にしてはいけない」という意味ではなく、「偉そうな態度を取ってはいけない」という戒めだと解釈すると良いでしょう。自分より実力が上でも下でも構いません。誰であっても、対等な心で、敬意をもって付き合いなさい、という教えです。

「過ちては則ち改むるに憚ること勿かれ。」

これは、今日の私自身の事でもあります。iPad を忘れてしまった為、今日は Zoom で発信できていません。少し年を取ると、こうして物を忘れてしまう事があります。これは、知らず知らずのうちに起こる小さな間違いです。

私は普段、朝出かける時に忘れてはいけないものを予定表に書いています。そこには、スマホ、充電器、手帳、予定表、カード入れ、薬袋、クリーム、iPad、羊羹、傘、鍵等、常に携行する物が全て書かれています。秤まで書いてあるのですが、今朝はその予定表を見ませんでした。朝は確認しないと忘れ易いと分かっているながら、大丈夫だろうと思ってしまったのです。見ないと1つや2つは忘れますが、今日は忘れてはいけない物まで忘れてしまいました。やはり、自分で決めた事は、きちんと実行する習慣を身に付けたいものです。

従って、「過ちては則ち改むるに憚ること勿かれ」という言葉が大切になります。間違えた時「御免なさい、失敗してしまいました」と素直に認め、次は素直に改めれば良いのです。

次の北関東フォーラムでは、岡本理事長もおられるし、同じ失敗を繰り返すわけにはいきませんね。私は体面にあまり拘りませんので、間違えたらすぐに訂正します。そのような心構えで、この句を読んで戴ければ良いと思います。

②為政第二【7】

しゅうこう と し いわ いま こう こ よ やしな い けんば いた
子游孝を問う。子曰く、今の孝は、是れ能く養うを謂う。犬馬に至るまで、
みな よ やしな あ けい なに もつ わか
皆能く養うこと有り。敬せずんば、何を以て別たんやと。

「子游孝を問う。」

子游というお弟子さんは、孔子よりかなり年下で、40歳程若かったとされています。解説では、22、3歳くらいだったという説が多く、孔子から見れば孫のような年齢の弟子です。

その弟子から、「孝とは、一体どういうものなのでしょう」と問いかけられたのです。

さて、少し話が飛びますが、今日も新聞が沢山あります。今朝、聖橋の事務所に行き、新聞にざっと目を通しました。事務局の佐藤さんから「西谷さんが東京フォーラムにいらっしゃるそうです」と連絡がありましたので、朝日新聞を買っておこうと思い、コンビニに立ち寄りました。

まず朝日新聞を手にとったところ、なかなか良いことが書いてありました。今日皆さんにお渡ししたレジュメがありますが、私の話を聞きながら、その一番下の部分を少し見て下さい。後程詳しく説明する内容を、少しお話します。

昭和21年2月17日付の新聞を調べてみました。今回のレジュメには、日経、朝日、毎日新聞について、一面の見出しだけを載せてあります。それをご覧になりながら、私の話を聞いて戴ければと思います。それでは、素読の説明に戻ります。

「子游孝を問う。子曰く、今の孝は、是れ能く養うを謂う。犬馬に至るまで、皆能く養うこと有り。敬せずんば、何を以て別たんやと。」

これをそのまま読むと、世の中には耳の痛い人が結構いるようです。孔子が言っているのは、親を養う、つまり扶養する事です。しかし、孔子は親を養うだけの事を孝と言っているではありません。親が飢え死にしないように食事を与えているだけでは、それは孝ではない、というのです。

自分の家で飼っている犬や馬も養っています。現代で言えば、ペットにも食べ物を与えています。ですから、「養う」という行為と「孝」は、同じではないのです。

ところが、今の感覚で言う親孝行は、何不自由なく食べ物を与えている事が大事だと考えられがちです。そうした事を親孝行だと思っている人が多いように感じます。ひどい場合ですと、食べさせれば良いのだからと、親を老人ホームや施設に入れるだけで、親孝行をしているつもりになる人もいます。

施設では生活に不自由はなく、きちんと食事も出ていますから、親孝行をしていると思っているのでしょう。しかし中には、殆どお見舞いに来ない人もいます。よく調べてみると、入居の際「普段、少し具合が悪くなった程度の連絡は要りません。親が亡くなった時だけ連絡して下さい」と言う人も、実際には結構いるようです。

そんな馬鹿なと思われるかもしれませんが、私のところでは介護施設を三つ運営していますので、現場の話を聞いてみると、実際そういう人がいます。

「何があっても連絡は要らないが、亡くなった時だけは連絡して下さい」と言うそうです。

そのような場合でも、本人は親孝行をしていると思っている訳です。それは親孝行と言わない、と孔子は教えています。

「敬せずんば、何を以て別たんやと。」

親を敬愛しないのに、それがどうして親孝行だと言えるのでしょうか。ペットの犬や猫、あるいは馬等も、きちんと養われています。食べ物を与え、運動もさせ、世話をしています。それは確かに面倒を見ている事にはなりますが、養っている事に過ぎません。「孝」と「養」をよく見比べ、親に対して大切なのは、単なる「養」ではなく「孝」敬う心である、と孔子は説明しています。

孝と養については、現代の孝は、孔子の説く孝と比べて、少し違ってきていると感じます。親孝行は大切ですが、昔の親孝行と今の親孝行では、在り方が異なります。現代の親孝行については、もう少し技術的な要素も含めて考える必要があるだろうと思います。

今日の素読は二つだけでしたので、最後に「孝」について渋澤栄一が語った話を一つ紹介しておきます。

これは昔話で、神崎右京という九州に住んでいた人の話です。神崎右京は53歳、母親は82歳でした。母親は足が不自由で、目も悪い、そろそろ最期の時を迎える頃だと思っていました。

ある時、母親が息子に、「私は信濃の善光寺に一度もお参りした事がない。それだけが心残りだ」と話しました。すると息子は、それなら自分が連れていこうと言いました。母親は足が悪いから迷惑をかけると言いましたが、息子は22歳の自分の子供も連れて行き、母親を背負って九州から信濃の善光寺まで向かいました。

一家は貧しく、旅費もありませんでしたので、家々の玄関先でお経を唱え、少しずつお布施を貰いながら、三ヶ月かけて往復したそうです。疲れた時は、親子で背負う役を交代しながら旅を続けました。

これが一つの「孝」の在り方だ、と渋澤栄一は語っています。中津藩のお殿様もこの話を聞き、立派だと褒めて褒美を取らせ、領民に広めたそうです。日本にもこのような孝行の姿があるのだと、渋澤栄一は強く書き残しています。

お金があれば人を雇ってやってもらう事も出来たでしょうが、お金が無くても自分の力で行った所が良いですね。

恒例の質問

それでは恒例の質問をします。初めての方の為に説明しておきますが、この質問はフォーラムの度に必ず行います。

これは物事を客観的に判断する為の質問ではありません。自分の主観で、今日は良い日だったかどうかを感じて欲しいのです。1か月経った時に、今月は良い日が多かったなと思えるかどうかを考える為でもあります。多くの方はつい客観的に、良かった事、悪かった事を数えて判断しようとしています。それでは意味がありません。

昨日は良い日だったか聞かれた時、例えば道を歩いている、自分の好みの女性とすれ違い、いいなと感じたとします。その瞬間、今日はいい日だと思えば、それで良いのです。逆に、嫌な印象の人とすれ違ったとして、2つを並べて客観的に良い・悪いと判断する必要はありません。

ここで大切なのは、判断せずに瞬間的に感じる事、つまり直感です。私達はその直感、「総合的直感力」を磨こうとしています。何か良いと感じたら、自然に手が上がる。それでいいのです。

嘘をついたか、つかれたか、有難うを言ったか言われたかについても同様に、細かく考える必要はありません。考え込まず、直感的に「はい」と思えば、それで十分です。瞬間的に感じて手を挙げる。恒例の質問はそのようにお答え下さい。

○良い日が続いたなと思う方

○嘘はつかなかつたし、嘘をつかれてもいないと思う方

○有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方

○身体の手入れをよくやっていると思う方

○自分磨きもよくやっていると思う方

○昨晚寝る時、「今日は、良い日だった。満足したな」と思って寝た方

これで前半は終了ですが、午後の部について少しお話しておきます。
高市早苗さんが「働いて・働いて・働いて・働いて、働いて参ります」と発言されました。私はそれをテレビで見て、知足の巻頭言に上記表現で書いたところ、知足の編集を担当している事務局佐藤さんから「新聞では点を打たず続けて書いてありますが、直してそれに合わせますか」と聞かれました。私は新聞の方が間違っていると答えました。

なぜなら、実際の話し方を聞くと、「働いて」と一つひとつ、はっきり区切って話していたからです。間を取りながら繰り返し、最後に強く「働いて参ります」と言っていました。私は、あれで世の中が変わると感じました。

総理大臣という立場で公に発信する人が、あのように区切って話したということは、これまでの働いてはいけない空気をひっくり返すメッセージになりました。働き方改革で、働くことが悪いかのような風潮がありましたが、「働いて・働いて・働いて・働いて、働いて参ります」と明確に示した訳です。批判もありましたが、あれによって日本はこれから変わるのではなく、既に変わったと思います。

もう一つ、国際情勢を見ると、これまではプーチン氏や習近平氏、北朝鮮などがならず者と見られていました。しかし、トランプ大統領もならず者となり力を前面に出すようになり、国際社会は力を持つ者が勝つ時代に入りました。アメリカ・ファーストとは、力で押し切るという意味です。以上で、前半を終了致します。

(休憩)

後半を再開致します。後半では、論語を現代的視点から解説致します。レジュメにもありますが、内容を現代に置き換えて考えることは最も重要です。孔子が昔こう言った、で終わるのではなく、今の時代、そして自分自身の現在に照らし合わせて考えることが肝心です。

「君子 重からざれば則ち威あらず。」

今の政治家で君子と呼べる人、徳があるとは言わなくても、少なくとも力やオーラを感じる人はいるでしょうか。

中村天風先生の著作によると、オーラは8層あるそうで、目に見えない虹色のようなものが重なっていると言います。見える人には見え、見えない人には見

えませんが、オーラを感じ取れる力が強い程、人間的なレベルが上がっている事を示す、そんな書き方がされています。残念ながら、私は見えません。

友人に一層だけなら見える人がいました。今は亡くなりましたが、合気道を通じてオーラが見えるようになったそうです。癌で亡くなる前には、体の悪い部分にハエが集まるという不思議な体験も話していました。一つでも感じ取れるのは凄い事だと思います。

政治家の中にも、たとえ一つでも何かを感じさせる人がいれば、その話を聞いてみたいのですが、残念ながら今は思い当たりません。

しかし、高市さんは今の調子で進んでいけば、何かしら新しいものを生み出すことができるのではないかという気がします。猪突猛進に見えますが、本人は細かい所まで相当気を配っているようです。

2月中に衆議院解散を行うという話もあり、周囲と様々な相談をしていると報じられています。これは本日の読売新聞の一面トップ記事です。一面トップに載るという事は、事実であればスクープと言えるでしょう。内容もそれなりに説得力があります。

仮に解散すれば、勝つ可能性は高いと思われれます。ただし、12月の読売の調査では、内閣支持率が73%ある一方で、自民党の支持率は30%でした。どちらの数字を重視するかが判断の分かれ目になります。自民党支持率に目を向ければ大敗する可能性もありますが、内閣支持率を重視すれば大勝する判断もあります。

人は往々にして、自分にとって都合が良く、願望に沿う情報を選びがちです。そう考えると、解散に踏み切る可能性は高く、おそらく勝つのではないかと思います。現在のメディアの動きも、その方向に流れているように感じられます。

一方、国際的に見ると、これまではトランプさん、プーチンさんと「さん」付けで呼んでいましたが、今回のトランプについては、正直そう呼ぶ気になれません。今回は、ベネズエラを自分のものにしようとしているように見えるからです。以前からグリーンランドの話もありましたが、今回のやり方はあまりに乱暴です。

寝ている夫婦の家に押し入るようなやり方で、しかも金品ではなく、人そのものを連れていく。もっともらしい理由をつけているだけで、本音は見えています。ならず者の手口そのものだと感じました。これで戦争にならない方がおかしいとも思います。

トランプはベネズエラとアメリカが最も儲かる形で付き合っていくと言っています。まるで、ベネズエラは自分のものだと言わんばかりです。

さらに、ロイター通信の報道では、次の標的はイランだと本人が語ったとされています。イランは悪い事をしているから正す、次はイランだと通告したという内容です。ただ、どの新聞に載っていたかは定かではありませんし、こうした報道自体、どこまで信用してよいのか疑問に感じています。

新聞の読み方について話すのは久しぶりです。以前は新聞を良く読んで、なるほど、と思った事は自分でも考えてみましようと言っていました。新聞には多くの記事が載っているのので、自分が気になるものに気づかせてくれる、そういう役割があるとも話していました。

気になる記事を見つけたら可能であれば現地に行き、自分の目で確かめる。あるいは関係者に会って話を聞く。新聞記事は、そうした行動につながる気づきを与えてくれるものとして読みましよう、という話をしたのが、10年から15年程前だったと思います。

しかし、ここ5年程は、新聞を含め YouTube 等あらゆるメディアを鵜呑みにしてはいけないと言っています。発信元はどこなのか、誰の意図なのかを疑えということです。フェイクニュースという段階はすでに終わり、今は情報戦、諜報戦の時代です。

例えば、中国は嘘を本当らしく見せることを戦略として使います。受け手がどう感じるかが重要で、中国を怖いと思わせればそれでいいのです。ですから、新聞記事の出所は何処なのかを考えなければなりません。誰が、どの立場で流している情報なのかを見極める努力が必要です。

また、仮にロシアを訪問した政治家がいて、帰国後に発言内容が大きく変わったとしたら、注意が必要です。以前はロシアを厳しく批判していたのに、帰国後は持ち上げるような発言に変わったとしたら、何らかの圧力があつたのではないかと考えられます。そうした変化を見抜く為には、特定の人物の言動を継続して追うことが必要です。

新聞を見ていると、強壮剤の広告が目につきました。60代でも、70代でも、最近では80代でも元気だと宣伝しています。しかし、強壮剤を飲まなくても元

気な人は元気ですし、90代でも同じ事が言えるでしょう。そう考えると、メーカーが利益のために、もっともらしい話を作って流しているのではないかと考えてしまいます。

多額の広告費を使って、大手広告代理店に依頼すれば、各メディアにそれらしく情報を流すことも可能でしょう。「電通裏十則」と言われるような話も、聞いたことがある方は少なくないと思います。真偽は別として、広告したい企業が十分なお金を出せば、影響力のある情報発信ができてしまう、そういう構造は確かに存在すると思います。

今年は非常に激しい乱高下の年ですから、ある意味で良い年だと思えます。上下の振れ幅がとてつもなく大きく、まるで天国と地獄をジェットコースターで行き来しているような状態ですが、まだそれは本物ではないとも思っています。

私は台湾有事について、高市さんが様々な取り組みをされてきましたが、台湾有事が日本有事になる可能性が本格的に高まるのは、2027年だと考えています。中国が狙っているのも来年であり、その為に軍備を増強しています。そうした状況を踏まえると、これでひと区切りだと思える年は来年であり、そこに焦点を当てています。

ただし、今年についても起きるかもしれないと言っている理由があります。戦争は、ほんの小さなミスとミスが重なり合って、偶発的に起きる事が多いものです。そうした小さな行き違いが積み重なり、相手が感情的に高ぶり、こちらも同じように感情的になってしまうと、それだけで事態が始まってしまう可能性があるのです。

この間、興味深い出来事がありました。カナダ艦船が行動しているところに、中国の軍艦がずっと近づいてきたのです。そこには機密が多くあるという理由でした。それは危険だと、近くにいたイギリスの軍艦が間に割って入りました。このままでは中国とカナダが衝突しかねない状況だったからです。

すると、今度はアメリカの補給船も出てきました。なかなか象徴的な構図でした。では日本はどうしていたのかというと、少し離れた場所で、何かあれば動ける態勢を取っていました。

高市さんの考え方で言えば、もしアメリカの補給船が攻撃を受ければ、アメリ

力を助ける形で介入することになります。これは昨年 12 月、実際にあった出来事です。

軍艦同士が衝突しかけた発端は中国側でした。カナダに対して中国が接近し、そこへイギリス、さらにアメリカが介入し、日本は少し距離を置いて状況を見ている、という図式でした。こうした危険な事態はあまりニュースでは大きく報じられませんが、今の世界情勢は非常に緊張感の高い状態にあると言えます。

トランプについて、もう一つ印象的な出来事がありました。今日は 10 日ですから、昨日の事だったと思いますが、国連関連の機関、66 機関に対して、もうお金は出さないと声明しました。資金が出なければ立ち行かなくなりますが、それでも構わない、アメリカ・ファーストで、アメリカだけが儲かればいいのだという姿勢です。思っている普通は口に出さないし、仮に口にしても実行しないものですが、それを力づくでやってしまう。これを見れば、中国が同じような事を考えない筈がありません。

ある日突然、落下傘で兵が降りてくる。ロシアがウクライナで行ったのと似た手法を取るのではないかと思います。ウクライナでは、ある日突然スマートフォンが使えなくなり、テレビも映らず、電話も繋がらない。不審に思って外に出たら、目の前に戦車がいた。これはロシアがウクライナを最初に制圧したやり方です。

台湾についても、中国は同じようなことを想定して訓練を重ねているように見えます。現在は緊張状態が続いている為、台湾の場合はまた別の、より巧みなやり方になる可能性があるとも考えられます。

一方でトランプは、イランやグリーンランドにも強い関心を示しています。ベネズエラについては部下に任せ、イランは自分が力づくで何かをやらなければならないと考えているように見えます。

グリーンランドについても、まず自分で動き、その後は部下に任せる、という形を繰り返すでしょう。そう考えると、手続きを踏み、国際法をある程度意識しながら国内法を整備して進めている習近平の方が、まともに見えます。

いずれにしても、これから先の 10 年は、こうしたならず者国家が幅を利かせる時代になるのではないかと感じています。

日本の状況についてももう少しお話しします。中国から見れば、レアアースを押さえていることは大きな強みです。特に半導体分野では、日本は輸入できなくなると大きな影響を受けます。その為中国は、経済面で日本をターゲットにし、半導体を初めとする輸出を止める、あるいは食料品などの輸出規制をかけるといった動きを始めているようです。

ここからは少し別の話もしておきます。昨日は、シムックスの足利営業所で話をしました。説明しますと、私は50年前、28歳の時にシムックスを設立しました。昨年で創立50周年を迎え、現在では売上が100億円を超える規模です。

私は会社で、毎月社員のもとを回り、直接話をしています。昨日は足利で、昭和21年2月17日付、79年前の新聞をコピーして配りました。

そこには、銀行に預けているお金が使えなくなる、手元に持っている現金も3月2日以降は無効になる、といった内容が書かれていました。実際に、そうした出来事が過去にありました。私は、同じような事がこれから再び起こる可能性がある、という話をしました。

今日は、丙午（へいご・ひのえうま）という前回の観点から、令和8年について考えてみます。ここに書かれている資料を見ると、丙午年に生まれた女性は、前後の年と比べて出生数が約25%少なかったことが分かります。これは「丙午に生まれた女性は夫を食い殺す」という迷信があり、女の子が生まれるとかわいそうだとして、出産を避けた家庭が多かった為です。

このような年は、迷信や根拠のない話があちこちで広がりやすくなります。今年も同様に、様々な噂や嘘が一気に広がる可能性があります。そうした状況の中で、これから何が起き得るのか、私は過去と同じような事が再び起こるかもしれないと思います。

79年前の新聞を見ると、日経新聞には銀行が「けふ（今日）から8日間、完全封鎖」とありました。一方、朝日新聞では預金封鎖という言葉は一面トップには使われず、経済危機突破非常措置と書かれていました。非常措置は金融だけでなく、食料に関する緊急措置令や、都会地転入抑制措置令等、様々な緊急命令がその日に一斉に出されたのです。毎日新聞では、はっきりと「けふ（今日）から預金封鎖」という見出しが掲げられていました。

これらが意味するのは、国民の財産が政府によって大幅に管理・没収されると

ということです。超富裕層であれば、100億円の資産があれば90億円が没収。1億円の資産を持つ人でも、9,000万円が没収、という内容が79年前の新聞に実際に載っています。

今年は、とにかくジェットコースターのように激しく状況が動く年になると思います。その先には、アルファ世代があります。アルファ世代は、自分の人生で100歳を迎えることが現実的に見える世代ですから、楽しいだろうなと思います。

本日は以上で終了です。有難う御座居ました。